

平成 30 年度滋賀県「観光交流」振興指針アクションプランの概要について

□平成 30 年度における観光施策の展開について

滋賀県「観光交流」振興指針(H26 年 1 月策定)に基づく取組を、社会情勢の変化等を反映させながら加速していきます。

平成 29 年度における取組の状況

- ・平成 29 年 10 月から 6 か月にわたって日本遺産をテーマに「日本遺産 滋賀・びわ湖 水の文化ぐるっと博」を開催し、市町と連携して県内各地でまち歩きや体験プログラムを展開し、地域での旅行者の受入に取り組んだ。
- ・「ビワイチ」については、多様な関係者とともに目指す姿を共有するための指針である「ビワイチ推進総合ビジョン」を策定するとともに、受入環境整備や国内外への情報発信を継続的に行い、体験者数も大幅に増加した。
- ・滋賀への誘引の役割を担う情報発信拠点「ここ滋賀」を平成 29 年 10 月に東京・日本橋にオープンした。

課題認識

滋賀県の“いいもの”が国内外に十分浸透していない

滞在時間を延ばし、宿泊して楽しんでいたく取組が必要

一過性に終わらない、継続的な観光振興につながる観光キャンペーンの展開が必要

本県への外国人観光客の呼び込みが必要

平成 30 年度における事業展開

- ・「水の文化ぐるっと博」の成果も活かしながら、「虹色の旅へ。滋賀・びわ湖」をテーマにした観光キャンペーンで、多様な主体とともに観光振興施策を展開することにより、県域全体での観光振興とおもてなし体制の整備を進める。
- ・ビワイチについては、引き続き、情報発信と受入環境整備を進めることとし、特に琵琶湖岸以外の内陸部への誘客（「ビワイチプラス」）にも取り組むとともに、官民が一体となって推進する体制に係る検討を進める。
- ・情報発信拠点「ここ滋賀」なども活用し、ココクール、地場産品、「おいしが うれしが」といった個別ブランドとも連携しながら、戦略的な情報発信を行う。



□アクションプランにおける目標ごとの具体的な取組

□観光地「滋賀」の認知度向上

<戦略>

- 琵琶湖・滋賀をキーワードとしたブランドの創造と発信
- ターゲットを意識した継続的な情報発信強化

<主な取組>

- ・情報発信拠点運営事業
- ・首都圏「滋賀の食材」プロモーション・流通促進事業

<成果指標>

- ①観光意欲度 28 位
※地域ブランド調査
- ②東南アジアからの宿泊者数 50,000 人
※宿泊旅行統計調査

□「滋賀ならではの」特色あるツーリズムの展開

<戦略>

- 滋賀の特色を際立たせる誘客活動の推進
- 学生、地域住民等による「観光交流」の推進

<主な取組>

- ・観光キャンペーン推進事業
- ・ビワイチ観光推進事業

<成果指標>

- ①歴史・文化目的の入込客数 1,260 万人
- ②自然目的の入込客数 110 万人
- ③スポーツ・レクリエーション目的の入込客数 1,050 万人
- ④買物・食等目的の入込客数 710 万人
※滋賀県観光入込客統計調査

□「観光交流」推進の体制づくり

<戦略>

- 来訪者を温かく迎える人材の育成
- 「観光交流」推進に向けた基盤の整備

<主な取組>

- ・スポーツボランティア支援事業
- ・観光まちづくり推進事業
- ・国際観光推進事業(受入体制強化)

<成果指標>

- ①満足との回答者の割合 90%
- ②再訪意向の回答者の割合 75%
※①、②旅行・観光消費動向調査

<総合成果指標>

- ・観光入込客数(延べ) 5,300 万人
- ・外国人観光入込客数(延べ) 60 万人
- ・宿泊者数 400 万人
- ・外国人宿泊者数 45 万人
- ・観光消費額 1,800 億円
- ※滋賀県観光入込客統計調査

平成30年度
滋賀県「観光交流」振興指針
アクションプラン

平成30年4月
滋賀県

平成30年度 滋賀県「観光交流」振興指針アクションプランのポイント

□平成29年度の取組（総括）

- 平成29年10月、滋賀の魅力を実際に見て、触れて、食べることができる体験型の発信を行うとともに、滋賀への誘引の役割を担う情報発信拠点「ここ滋賀」を東京・日本橋にオープンしました。
- 平成29年10月から6か月にわたって日本遺産*1をテーマに「日本遺産 滋賀・びわ湖 水の文化ぐるっと博」を開催し、市町と連携して県内各地でまち歩きや体験プログラムを展開し、地域での旅行者の受入に取り組みました。
- 「ビワイチ」については、多様な関係者とともに目指す姿を共有するための指針である「ビワイチ推進総合ビジョン」を策定するとともに、受入環境整備や国内外への情報発信を継続的に行い、体験者数も大幅に増加しました。
- インバウンドについては、東アジアや東南アジアに加えて、個人や欧米など新たな市場開拓を展開するとともに、多言語対応や無料Wi-Fi整備など、受入環境の向上に取り組みました。
- 地域におけるDMO*2の形成・確立に向けた取り組みを支援することにより、自立的かつ継続的な観光振興の仕組みづくりを推進しました。

□課題認識

- 琵琶湖をはじめとする滋賀の豊かな自然や歴史、文化、その豊かな環境で育まれた食やモノなど、滋賀県の観光資源が国外はもとより、国内にも十分浸透していません。
- 地域の特性を活かしたコンテンツが宿泊や消費行動に十分に結びついておらず、観光消費額を伸ばし、地域経済の活性化に結びつけるためには、滞在時間を延ばし、宿泊して楽しんでいただく取組が必要です。
- 平成29年度の「水の文化ぐるっと博」の取組の成果を活かし、一過性のイベントに終わらない、継続的な観光振興につながる観光キャンペーンの展開が必要です
- 訪日外国人が過去最高を記録する中、東京オリンピック・パラリンピック、ワールドマスターズゲームズ2021 関西などを控え、本県への外国人観光客の呼び込みが求められています。
- DMOを中心とした、マーケティングに基づく観光振興の仕組みづくりが求められています。
- 東京大学大学院の研究で平成27年の滋賀県の健康寿命が男女とも全国1位となり、滋賀県の暮らしや食に対する関心が高まっています。

□平成30年度の取組

- 情報発信拠点「ここ滋賀」なども活用し、ココクール、地場産品、「おいしが うれしが」といった個別ブランドとも連携しながら、戦略的な情報発信を行います。
- 平成29年度の「水の文化ぐるっと博」で展開した地域観光プログラムの取組の成果も活かしながら、「虹色の旅へ。滋賀・びわ湖」をテーマにした観光キャンペーンで、多様な主体と一体となった観光振興施策を展開することにより、県域全体での観光振興およびおもてなし体制の整備を進めます。
- ビワイチについては、引き続き、情報発信と受入環境整備を進めることとし、特に琵琶湖岸以外の内陸部への誘客（「ビワイチプラス」）にも取り組みます。さらに、官民が一体となって推進する体制に係る検討を進めることとしています。
- インバウンドについては、自然・歴史・文化に関心が高い欧州市場を中心に、ターゲットに訴求する情報発信を強化することにより、目的地として選ばれる滋賀を目指して取り組みます。
- これまでの観光まちづくりの取組の成果を踏まえ、観光をキーにしたまちづくりを行う仕組みのモデルづくりに取り組み、地域の交流人口の増加と、観光を通じた地域経済の活性化につなげていきます。
- 「健康しが」をキーワードに、滋賀県の暮らしや食を活かした誘客活動に取り組みます。

【アクションプランの目的】

- ・県では、観光振興に係る基本的な考え方を、滋賀県「観光交流」振興指針にまとめ、「『観光交流』を通じて活力ある地域社会の実現を目指す」ことを基本方針として、関係者と連携して取組を進めています。
- ・また、指針では、毎年度アクションプランを策定し、経済・社会情勢の変化に対応するとともに、取組を見直しながら効果的に事業を展開することとしています。

**経済波及効果！
地域活性化！**

認知度、興味度の
向上

「認知」の壁
を破る！

特色あるツー
リズムの展開

「来訪」の壁
を破る！

満足度の向上
再訪へのつながり

「再訪」の壁
を破る！



**□観光地「滋賀」の
認知度向上**

＜戦略＞

- 琵琶湖・滋賀をキーワードとしたブランドの創造と発信
- ターゲットを意識した継続的な情報発信強化

＜主な取組＞

- ・滋賀の魅力体感創造事業
- ・情報発信拠点運営事業
- ・体感型「ココル」魅力発信事業
- ・首都圏「滋賀の食材」プロモーション・流通促進事業
- ・滋賀の戦略的県外PR事業
- ・プロスポーツを活用した滋賀の魅力発信事業
- ・国際観光推進事業(情報発信)
- ・ミシガン州滋賀県姉妹提携50周年記念事業

＜成果指標＞

- ①観光意欲度 28位
- ※①地域ブランド調査
- ②東南アジアからの宿泊者数 50,000人
- ※②宿泊旅行統計調査

**□「滋賀ならではの」特色
あるツーリズムの展開**

＜戦略＞

- 滋賀の特色を際立たせる誘客活動の推進
- 学生、地域住民等による「観光交流」の推進

＜主な取組＞

- ・観光キャンペーン推進事業
- ・ピワイチ観光推進事業
- ・映像誘致・ロケ支援事業
- ・新琵琶湖博物館創造推進事業
- ・「おいしがうれしが」食のおもてなしプロジェクト実践支援事業
- ・FOOD BRAND OH!MI 海外プロモーション
- ・近江牛魅力発信事業
- ・びわ湖のめぐみ消費拡大PR事業

＜成果指標＞

- ①歴史・文化目的の入込客数 1,260万人
- ②自然目的の入込客数 110万人
- ③スポーツ・レクリエーション目的の入込客数 1,050万人
- ④買物・食等目的の入込客数 710万人
- ※滋賀県観光入込客統計調査

**□「観光交流」推進の
体制づくり**

＜戦略＞

- 来訪者を温かく迎える人材の育成
- 「観光交流」推進に向けた基盤の整備

＜主な取組＞

- ・スポーツボランティア支援事業
- ・「ウェルカム滋賀」推進事業
- ・県域無料Wi-Fi整備促進事業
- ・観光まちづくり推進事業
- ・国際観光推進事業(受入体制強化)
- ・「ピワイチ」安全・安心な自転車利用促進事業
- ・東京オリンピック・パラリンピック文化プログラム推進事業

＜成果指標＞

- ①満足との回答者の割合 90%
- ②再訪意向の回答者の割合 75%
- ※①、②旅行・観光消費動向調査

＜総合成果指標＞

- ・観光入込客数(延べ) 5,300万人
- ・外国人観光入込客数(延べ) 60万人
- ・宿泊者数 400万人
- ・外国人宿泊者数 45万人
- ・観光消費額 1,800億円
- ※滋賀県観光入込客統計調査

※1 日本遺産：我が国の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が「日本遺産」として認定し国内外に発信していく制度で、本県からは平成27年に「琵琶湖とその水辺景観－祈りと暮らしの水遺産」が認定された。
 ※2 DMO：観光地経営の視点に立った観光地域づくりの舵取り役として、多様な関係者と協働しながら戦略を策定するとともに、それを着実に実施する調整機能を備えた法人をいう。

目標 1 観光地「滋賀」の認知度向上

滋賀県は、琵琶湖に代表される風光明媚な自然や美しい景観、比叡山延暦寺、彦根城などの「近江」の奥深い歴史文化に育まれた数多くの文化財、そして地域に根ざした祭りや伝統芸能、生活文化、さらにこれらとともに育まれてきた食材や食文化などを有しています。こうした本県の多彩な魅力を内外に強くアピールし、観光地「滋賀」に対する「認知の壁」を破り、多くの人に滋賀の地に訪れてもらうきっかけをつくります。

○継続的な取組

滋賀県が有する豊富な観光資源、特産品の魅力を継続的に発信・アピールし、観光地としての滋賀県のブランド力を高めていきます。

あわせて、インターネットホームページやソーシャルネットワーキングサービス（SNS）を活用した発信、マスコミや旅行エージェントに対するプロモーション活動のほか、鉄道事業者と連携したキャンペーン活動や情報発信拠点「ここ滋賀」等を活用した発信、大近江展をはじめとする物産展の開催等を継続して進めます。

＜主な成果指標＞

- ① 観光意欲度 28位（平成29年 全国38位）
- ※ ① 「地域ブランド調査」（ブランド総合研究所）
- ② 東南アジアからの宿泊者数 5万人（平成29年（速報値） 約3.0万人）
- ※ ② 「宿泊旅行統計調査」（観光庁）〔従業者数10人以上の施設対象〕

戦略 琵琶湖・滋賀をキーワードとしたブランドの創造と発信

滋賀県のシンボルである琵琶湖を中心に、「滋賀・びわ湖」をコンセプトに、琵琶湖の美しい水が育んだ歴史・風土や暮らしの中の生活文化、アート等の美の資源など、滋賀県の価値をイメージできるブランドを「美の滋賀」づくりなどにより構築し、内外にアピールします。また、「近江牛」、「信楽焼」など全国的に知名度が高い産品など、滋賀の様々な魅力をさらにしっかりと「滋賀」と結び付けることにより、「滋賀」のブランド化に向けた取組を進めていきます。

平成30年度においては、首都圏において情報発信拠点「ここ滋賀」を運営するとともに、この拠点を活用し、「ココクール」※3の情報発信等を行う「体感型『ココクール』魅力発信事業」、生産者団体等と連携して「滋賀の食材」のブランド力強化を図る「首都圏『滋賀の食材』プロモーション・流通促進事業」を実施するなど、観光地としての「滋賀」の認知度の向上を目指します。

取組名	事業内容	予算額 (千円)	KPI (H30事業目標)	担当課
滋賀の魅力体感創造事業	情報発信拠点「ここ滋賀」内で、滋賀の魅力を実際に見て、触れて、食べることができる体験型の発信を行うとともに、「ここ滋賀」外でも商品等売り込むことで本県経済の発展につなげる。	76,000	情報発信拠点の利用者数 40.5万人	観光交流局
情報発信拠点運営事業	滋賀の魅力を継続的に発信するための拠点を運営する。	125,125	情報発信拠点の利用者数 40.5万人	観光交流局
体感型「ココクール」魅力発信事業	「ココクール」として「ここ滋賀」と連携した「ココクール」の体験型イベントを開催する。さらに、平成29年度にリニューアルしたウェブサイトに掲載する動画を作成し、上記イベントで活用しリアルとネットでの情報発信を複合的に実施することで、滋賀のファン開拓および滋賀への誘客につなげる。	5,730	「ココクール」ウェブサイト のページビュー数 49,000PV	商工政策課

首都圏「滋賀の食材」プロモーション・流通促進事業	首都圏の滋賀のゆかりの店（ネットワーク店）や情報発信拠点ここ滋賀を活用して滋賀の「食」の情報発信、販路拡大を強化することで、首都圏を始めとする大都市の発信力を活かした「滋賀の食材」の認知度向上・消費拡大を図る。	18,173	ここ滋賀等での飲食利用者のうち、再度利用する意向を示した人の割合 60%	食のブランド推進課
--------------------------	---	--------	--------------------------------------	-----------

戦略 ターゲットを意識した継続的な情報発信強化

滋賀県の有する多彩な魅力について、マーケティング分析によりターゲットを明確にして、各種メディアやインターネット等、様々なツールを組み合わせることで、本県の観光地への興味を喚起し、来訪につなげます。

平成30年度においては、本県の魅力的な素材や旬の話題を取り上げ、メディアへの掲載・露出の拡大につながる情報発信を行う「滋賀の戦略的県外PR事業」、プロスポーツの持つ集客力や全国的な発信力を活かし、ユニフォームへのロゴ等の掲示やアウエーゲームでのブース出展等により滋賀の魅力を発信する「プロスポーツを活用した滋賀の魅力発信事業」、市場に応じたプロモーション活動を行い外国人観光客の増加を目指す「国際観光推進事業（海外への情報発信）」、ミシガン州との姉妹提携50周年を記念し、発信と交流を推進する「ミシガン州滋賀県姉妹提携50周年記念事業」などを展開することで、ターゲットとする地域や旅行者層からの観光客数の増加を目指します。

取組名	事業内容	予算額 (千円)	K P I (H30 事業目標)	担当課
滋賀の戦略的県外PR事業	首都圏を中心とする県外の方々に対して滋賀の魅力を広め、認知度や好感度を高めるため、本県の魅力的な素材や旬の話題を取り上げ、メディアへの掲載・露出の拡大につながる情報発信を行う。	20,200	県外向け情報の発信 ・メディアリリース 36回	広報課
プロスポーツを活用した滋賀の魅力発信事業	プロスポーツの持つ集客力や全国的な発信力を滋賀の魅力を広く伝えるツールとして位置付け、滋賀の魅力を発信し、地域の活性化につなげる。	10,300	県外における滋賀の魅力を伝えるためのチラシ等の配布数 18,000件	スポーツ局
国際観光推進事業（海外への情報発信）	訪日旅行者を本県に誘致するため、訪日外客数上位である東アジアや伸びが大きい東南アジアを中心にプロモーション活動を実施する。併せて、県内での観光周遊が見込まれる個人旅行やグループ旅行のほか、欧米からの来訪者など新たな市場の開拓も行い、更なる外国人観光客の増加を目指す。	18,960	・旅行博での発信強化 5地域 ・エージェント、メディア等の招請 20者	観光交流局
ミシガン州滋賀県姉妹提携50周年記念事業	ミシガン州と滋賀県の姉妹提携50周年を祝い、記念式典を開催するとともに、特に若者、文化、芸術分野の重層的な交流を推進する。	17,601	滋賀県とミシガン州の友好交流の認知度60%（アンケートを実施）	観光交流局

※3「ココクール マザーレイク・セレクション」：滋賀ならではの資源や素材を活かし、心の豊かさや上質な暮らしぶりといった滋賀らしい価値観を持つ商品・サービスを募り、その中から特に湖国・滋賀のイメージをクールに伝える素敵なものを選んだセレクション

目標2 「滋賀ならではの」の素材や強みを活かした特色のあるツーリズムの展開

滋賀県には、琵琶湖とそれを中心に広がる豊かな自然、国内有数の歴史遺産さらには悠久の歴史に育まれた生活文化、近江牛をはじめとする地域の食材等の「滋賀ならではの」の地域資源があります。これらを有効に活用することにより、他府県には真似のできない「滋賀ならではの」のツーリズムを展開し、観光地「滋賀」への「来訪の壁」を破ります。

○継続的な取組

花火大会や伝統的なまつりの支援、各地域で実施する誘客活動の支援、滋賀ロケーションオフィスと連携した映画を通じた魅力の発信などを継続的に進めるほか、波及効果が大きいコンベンション誘致や将来の滋賀県ファンを育てることにもつながる教育旅行の誘致等に粘り強く取り組みます。また、県民の皆さんにも滋賀の魅力を再発見いただく「旅の地産地消」にも取り組みます。

〈主な成果指標〉

- | | |
|--------------------------|---------------------------|
| ① 歴史・文化目的の観光入込客数 | 1, 260万人 (平成28年 約1,200万人) |
| ② 自然目的の観光入込客数 | 110万人 (平成28年 約104万人) |
| ③ スポーツ・レクリエーション目的の観光入込客数 | 1,050万人 (平成28年 約1,002万人) |
| ④ 買物・食等目的の観光入込客数 | 710万人 (平成28年 約682万人) |

※滋賀県観光入込客統計調査

戦略 滋賀の特色を際立たせる誘客活動の推進

豊富な観光資源等の滋賀県の強みを有効に活用し、その魅力が最大限発揮されるようテーマ性・ストーリー性のある多彩なメニューの展開等を進め、国内外の観光客が興味を持ち、本県を訪れていただけるよう、「滋賀ならではの」の魅力あるツーリズムを展開します。

平成30年度においては、「虹色の旅へ。滋賀・びわ湖」をテーマにした観光キャンペーンを展開する「観光キャンペーン推進事業」、「ビワイチ」^{※1}コンテンツの確立と県内全域への自転車による周遊観光を推進する「ビワイチ観光推進事業」、ロケ支援により映像を通じた滋賀県の発信とイメージアップを図る「映像誘致・ロケ支援事業」、琵琶湖博物館のリニューアルを契機とした効果的な認知度向上に取り組む「新琵琶湖博物館創造推進事業」、観光キャンペーンにあわせて宿泊施設等で県産食材の魅力を発信する『『おいしが うれしが』食のおもてなしプロジェクト実践支援事業』、県産農畜水産物の海外へのプロモーションを展開する「FOOD BRAND OH!MI 海外プロモーション事業」、近江牛の魅力を発信する「近江牛魅力発信事業」、「琵琶湖八珍」をはじめとする湖魚のブランド化を促進する「びわ湖めぐみ消費拡大PR事業」などを展開することにより、歴史・文化、自然、スポーツ・レクリエーション、買物・食等を目的とする観光入込客数の増加を目指します。

取組名	事業内容	予算額 (千円)	KPI (H30 事業目標)	担当課
観光キャンペーン推進事業	滋賀県『観光交流』振興指針の目標達成に向け、最終年度である平成30年度に、県、市町、観光関連団体、観光事業者および交通事業者等と一体となった総合的な観光振興施策として観光キャンペーンを展開し、観光地・滋賀としての認知度向上および本県への誘客や周遊促進を図る。	134,800	観光入込客数 5,300万人	観光交流局
ビワイチ観光推進事業	「ビワイチ」を安心・安全に、多様な人々が楽しめるコンテンツとして確立させるとともに、琵琶湖を中心に県内全体に広がる多様な資源を活かして県内全域への自転車による周遊観光を推進することを通じて、国内外からの来訪促進をはかり、地域活性化へつなげる。	19,817	ビワイチ体験者数 12万人	観光交流局

映像誘致・ロケ支援事業	映画・テレビ等の映像を通じて本県の豊かな自然や歴史・文化遺産を広く発信することにより、本県のイメージアップと観光および地域の振興を図る。	9,111	シナリオハンティング支援件数 5件	観光交流局
新琵琶湖博物館創造推進事業	博物館のリニューアルの効果を高め、利用者の拡大と定着を図るため、県民参加型交流会や移動博物館の開催等、県民やリニューアルの趣旨に賛同する企業等と連携した効果的な認知度向上の取組を行うとともに、教育旅行のプロモート等による誘客促進の取組を行う。	27,950	・新聞等に取り上げられる回数 600回 ・連携する企業・団体等の数 130者 ・「倶楽部LBM」新規会員登録者数3,000人	環境政策課 (琵琶湖博物館)
「おいしがうれしが」食のおもてなしプロジェクト実践支援事業	平成30年度実施の大型観光キャンペーンにあわせ、県内の生産者(組織・団体)等と宿泊施設等が連携して観光客へ県産食材の魅力を伝える「食のおもてなし」企画を、テーマと時期を決めて県全域で一斉に実施することにより、宿泊施設等における観光客への県産食材の魅力発信を強化する。	4,743	食の発信企画に参加する宿泊施設等の数 30	食のブランド推進課
FOOD BRAND OH!MI 海外プロモーション事業	県産農畜水産物の海外展開を促進するため、JETRO等と連携して、海外展示商談会への滋賀県ブース出展等を実施するとともに、アジア、北米等、有望地域へのプロモーションを効果的に実施する。	10,269	輸出推進に取り組む生産者団体等の数 15組織	食のブランド推進課
近江牛魅力発信事業	近江牛の地理的表示(GI)保護制度登録を機にさらなるブランド力向上を図るため、東京や訪日外国人に向けて近江牛の魅力を発信する。	5,057	近江牛の指定店舗数(累計) 292店舗	畜産課
びわ湖のめぐみ消費拡大PR事業	「琵琶湖八珍」をはじめとする湖魚をより身近に魅力的に感じることでできる機会を創出、および事業者参画を促進することにより、湖魚の消費拡大・ブランド化を図る。	19,346	びわ湖産魚介類を活用する事業者数(琵琶湖八珍マスター・フェア参加者数)累計180事業者	水産課

戦略 学生、地域住民等による「観光交流」の推進

「観光交流」の推進に向け、地域住民の皆さんの郷土への誇りを醸成するとともに、本県の大学に在籍する学生に本県の魅力を発見していただき、「滋賀県ファン」になっていただく取組を進めるなど、地域や大学等と連携した「観光交流」の推進を図ります。

平成30年度においては、子どもをはじめ多くの県民が美術の魅力に出会い楽しむことができる機会を創出する「みんなで創る美術館プロジェクト」、など、学生や地域と連携した観光交流を進めます。

取組名	事業内容	予算額 (千円)	KPI (H30事業目標)	担当課
みんなで創る美術館プロジェクト	県内各地で地域の施設や学校、団体等と連携し、子どもをはじめ多くの県民が美術の魅力に出会い楽しむことができるワークショップや講座などを実施する。	27,212	・参画・連携した団体数 90団体 ・事業参加者数 5,000人	文化振興課

※4 ビワイチ：琵琶湖の周りをサイクリング等で一周することをいう。

目標3 来訪者、居住者双方がともに満足できる「観光交流」推進の体制づくり

人口減少社会において、「観光交流」の推進は、来訪者のみならず、お迎えする地域社会全体にとっても、地域の活性化や経済効果など大きな恩恵をもたらします。このため、「観光キャンペーン推進事業」などを通じて、地域において観光振興が自立的、継続的に推進される仕組みづくりを進めるほか、「観光交流」推進の前提となる来訪者の滞在環境の向上や、訪日外国人に安全・安心を体感してもらえる基盤づくりに向けて取り組むなど、地域ぐるみでソフト・ハード両面にわたって、「観光交流」の体制づくりを行います。これらの取組を通じて来訪者の満足度を向上させ、リピーターとなっていただくことで、観光地「滋賀」への「再訪の壁」を破ります。

○継続的な取組

ボランティアガイドの研修支援等を通じた人材育成のほか、受入基盤整備として、景観保全や来訪者にも優しい環境づくり、無料 Wi-Fi や最寄り駅からの2次交通アクセス整備の支援等を進めます。

<主な成果指標>

- ① 満足との回答者の割合 90% (平成27年 83.6%)
- ② 再訪意向の回答者の割合 75% (平成27年 54.9%)
- ※①、②「旅行・観光消費動向調査」(観光庁)

戦略 来訪者を温かく迎える人材の育成

地域への愛着と誇りを持ち来訪者を温かく迎える人材の育成を進め、人間味溢れる交流を通じて、来訪者が「滞在したくなるまち」、「もう一度訪れたいまち」を目指し、地域において実際に観光客におもてなしを行う観光ボランティアの育成等に取り組みます。

平成30年度においては、東京オリンピック・パラリンピックなどのスポーツイベントを見据えたスポーツボランティアの育成を支援する「スポーツボランティア支援事業」や、来訪者を温かく迎える観光ボランティアガイドの「おもてなし」の向上を図る「『ウェルカム滋賀』推進事業」などを実施することにより、来訪者の満足度を向上し、再訪につなげます。

取組名	事業内容	予算額 (千円)	KPI (H30 事業目標)	担当課
スポーツボランティア支援事業	スポーツを「支える」立場から、ボランティアとしてのスポーツ活動への積極的な参加、機会づくりを支援し、県内で開催されるスポーツイベントや大会の円滑な運営につなげる。	25,200	スポーツボランティア登録者2,000名(平成32年度)を目指し、そのための普及、啓発を行う。また、登録者の資質向上のため、研修会を実施する。	スポーツ局
「ウェルカム滋賀」推進事業	観光ボランティアガイドの活動により、来訪者を温かく迎える「おもてなし」の向上を図り、地域の活性化や観光振興につなげる。	250	県域協議会加入団体の観光ボランティアガイド会員数 740人	観光交流局

戦略 「観光交流」 推進に向けた基盤の整備

観光地経営の視点に立った観光地域づくりの舵取り役となるDMOの形成・確立や、観光まちづくりの仕組みづくりに取り組みます。また、観光客に満足して滞在していただき、リピーターになってもらえるよう、受入環境の整備を進めます。

平成30年度においては、地域におけるDMOの形成・確立のためモデル地区への支援等を行う「観光まちづくり推進事業」、多言語対応の充実など訪日旅行者の受入環境の向上を図る「国際観光推進事業（外国人観光客の受入体制強化）」、自転車の安全・安心な利用のためのサイクリング環境の整備を行う「『ビワイチ』安全・安心な自転車利用促進事業」、滋賀ならではの文化を活かした文化プログラムを推進する「東京オリンピック・パラリンピック文化プログラム推進事業」、国内外の旅行者が手軽にインターネットを利用できる無料 Wi-Fi 環境の充実を図る「県域無料 Wi-Fi 整備促進事業」などを実施することにより、来訪者の満足度を向上し、リピーターの獲得につなげます。

取組名	事業内容	予算額 (千円)	K P I (H30 事業目標)	担当課
観光まちづくり推進事業	県内各市町や観光関連団体、観光事業者、住民など、多様な主体が参加、連携し、観光をキーにまちづくりに取り組み、観光振興のレベルアップと地域の活性化を目指す。	15,750	・観光まちづくりに向けた合意形成 3 地域 ・観光まちづくりの展開 7 地域 ・県内DMO展開加速化支援 1 地域	観光交流局
国際観光推進事業(外国人観光客の受入体制強化)	訪日旅行者を本県に誘致するため、パンフレットの充実や多言語対応など、受入環境の向上を図る。	2,750	・訪日観光客向けパンフレット作成 ・宿泊施設向け多言語通訳サービス対応件数 500 件	観光交流局
「ビワイチ」安全・安心な自転車利用促進事業	「ビワイチ」をはじめ自転車を安全・安心に利用できる環境の構築や事故防止に向けた安全指導の強化、総合的に自転車情報を発信する環境の整備を進めるとともに、路面表示、走行空間整備などを進める。	274,849	ビワイチ体験者数 12 万人	交通戦略課 道路課
東京オリンピック・パラリンピック文化プログラム推進事業	東京オリンピック・パラリンピックの開催効果を活かし、滋賀ならではの文化の魅力を世界に向けて発信するため、多様な分野の関係者が集まる推進会議の開催や子ども・若者による次世代芸術フェスティバル事業などを実施する。	11,184	フェスティバル参加者アンケートで「大変良かった」「よかった」の回答の割合 80%	文化振興課
県域無料 Wi-Fi 整備促進事業	国内外から滋賀への訪問者をはじめ、誰でも手軽に観光地などの訪問先でインターネットが利用できる無料 Wi-Fi 環境の一層の整備促進と利用方法などの利便性向上により、滋賀の「おもてなし」環境の充実を図る。	8,059	・無料 Wi-Fi 設置事業費補助によるアクセスポイント設置 (60 か所) ・県立施設 Wi-Fi 整備 (5 か所)	情報政策課

〈平成30年度総合成果指標〉

○観光入込客数（延べ） 5,300万人

実績を踏まえ、着実に入込客数を増加させることを目指して設定

※ 平成29年（速報） 5,226万人

○宿泊客数 400万人

実績を踏まえ、着実に宿泊客数を増加させることを目指して設定

※ 平成29年（速報） 387万人

○外国人観光入込客数（延べ） 60万人

近年の急激に伸びた水準を維持し、着実に増加させることを目指して設定

※ 平成28年 55万人

○外国人宿泊客数 45万人

近年の急激に伸びた水準を維持し、着実に増加させることを目指して設定

※ 平成28年 40万人

○観光消費額 1,800億円

実績を踏まえ、着実に観光消費を増加させることを目指して設定

※ 平成29年（速報） 1,786億円

◎ 「滋賀県観光入込客統計調査」による。

※次ページ以降には、滋賀県「観光交流」振興指針アクションプランに関連する重点事業の一覧を掲載しています。

別添1 平成30年度滋賀県「観光交流」振興指針アクションプラン関連事業

基本目標1 観光地「滋賀」の認知度向上

戦略 琵琶湖・滋賀をキーワードとしたブランドの創造と発信

担当課	取組名	事業内容	予算額 (千円)	目標
観光交流局	滋賀の魅力体感創造事業	情報発信拠点「ここ滋賀」内で、滋賀の魅力を実際に見て、触れて、食べることができる体験型の発信を行うとともに、「ここ滋賀」外でも商品等売り込むことで本県経済の発展につなげる。	76,000	情報発信拠点の利用者数 40.5万人
東京本部 観光交流局	首都圏ネットワーク活用事業	滋賀ゆかりの人や企業ネットワーク、新たに滋賀とつながる人等を活用した首都圏での滋賀ファンの裾野の拡大と営業活動の強化を図る。また、拠点をはじめとする首都圏発信の効果を検証する。	12,299	情報発信拠点の利用者数 40.5万人
観光交流局	情報発信拠点運営事業	滋賀の魅力を継続的に発信するための拠点を運営する。	125,125	情報発信拠点の利用者数 40.5万人
文化振興課	地域の元気創造・暮らしアート事業(「美の滋賀」創造事業)	「美の滋賀」づくりを推進するため、アートや暮らしの中にある美の資源を活用して、地域を元気にする取組を行う民間団体等へ支援を行うとともに、ネットワーク化等を促進し、発信力のあるアートプロジェクトへの発展を目指す。	10,200	採択団体アンケートで地域の元気創造に「たいへん効果があった」「効果があった」の回答の割合 80%
商工政策課	体感型「ココクール」魅力発信事業	「ココクール」として「ここ滋賀」と連携した「ココクール」の体験型イベントを開催する。さらに、平成29年度にリニューアルしたウェブサイトに掲載する動画を作成し、上記イベントで活用しリアルとネットでの情報発信を複合的に実施することで、滋賀のファン開拓および滋賀への誘客につなげる。	5,730	「ココクール」ウェブサイトのページビュー数 49,000PV
モノづくり振興課	滋賀の地域産業振興総合支援事業	本県の優れた地域資源である地場産業等の「稼ぐ力」を高め、地方創生の核となる新たな成長産業として育成するため、施策推進協議会の運営を行うとともに、地場産業および地域特産品の振興のための戦略的な取組を支援する。	24,899	新商品開発等ブランド強化に取り組んだ組合数 12組合
モノづくり振興課	地域ブランド戦略フォーラム事業	地場産業および地場産品等の認知度向上を図るため、産学官金ならびに生産から販売までの関係者、県下の全自治体を対象としたプラットフォームを形成することにより、効果的・効率的な地域ブランドの発信やバイヤーとのマッチング等を図る。	770	フォーラムへの参加総数 130名
中小企業支援課 モノづくり振興課	来て、見て、ふれ「メイド・イン滋賀」魅力発信・体感事業	情報発信拠点「ここ滋賀」等において、本県の地場産業や伝統的工芸品の魅力を消費者等に発信し、体感いただくことで、県産品の消費拡大や本県への来訪者の拡大を図る。	5,970	情報発信拠点の利用者数 40.5万人
食のブランド推進課	強める！ブランド力「滋賀の食材」発信事業	地域が一体となってブランド化を進める品目について、産品の特性、品質管理、産地との結びつきをしっかりと整理し、地理的表示などの知的財産の取得を推進する。また、登録産品の取り組みを広く県民に伝え、県民が誇れる産品への育成を図る。	4,324	地理的表示、地域団体商標の累積申請数 15品目
食のブランド推進課	首都圏「滋賀の食材」プロモーション・流通促進事業	首都圏の滋賀のゆかりの店(ネットワーク店)や情報発信拠点ここ滋賀を活用して滋賀の「食」の情報発信、販路拡大を強化することで、首都圏をはじめとする大都市の発信力を活かした「滋賀の食材」の認知度向上・消費拡大を図る。	18,173	ここ滋賀等での飲食利用者のうち、再度利用する意向を示した人の割合 60%
食のブランド推進課	「おいしが うれしが」キャンペーン推進事業	推進店と生産者のマッチングを促進することにより、県民の県産食材の購入機会と推進店における取扱量の増加、さらには県産食材の生産振興につなげる。	3,189	「おいしが うれしが」キャンペーン県内推進店舗数 1500店舗
食のブランド推進課 農業経営課	みんなが育てる「みずかがみ」ブランド支援事業	平成30年産からの米政策改革を見据え、県育成の「みずかがみ」を近江米ブランドを牽引する品種として、「守り、育てる」生産者自らの組織的な活動を支援するとともに、マスメディアを利用したPRで認知度を高めることにより、近江米需要の安定的な確保を図る。	15,984	日本穀物検定協会食味ランキングで「特A」を取得し、ブランドイメージを維持向上させる

戦略 ターゲットを意識した継続的な情報発信強化

担当課	取組名	事業内容	予算額 (千円)	目標
広報課	滋賀の戦略的県外PR事業	首都圏を中心とする県外の方々に対して滋賀の魅力を広め、認知度や好感度を高めるため、本県の魅力的な素材や旬の話題を取り上げ、メディアへの掲載・露出の拡大につながる情報発信を行う。	20,200	県外向け情報の発信 ・メディアリリース 36回
スポーツ局	プロスポーツを活用した滋賀の魅力発信事業	プロスポーツの持つ集客力や全国的な発信力を滋賀の魅力を広く伝えるツールとして位置付け、滋賀の魅力を発信し、地域の活性化につなげる。	10,300	県外における滋賀の魅力を伝えるための チラシ等の配布数 18,000件 (リーグ観客数約 3,000人×6試合=の べ18,000件)
観光交流局	観光物産情報発信事業	県内の観光物産関連情報を(公社)びわこビクターズビューローに集約し、情報の一元化を行い発信している観光物産情報ウェブサイトの管理運用を行うとともに、JR西日本等との共同による観光客誘致促進のためのキャンペーンの展開、県域全体の観光案内・観光相談等の業務を行う。	33,691	HPアクセス件数:620 万件
観光交流局	国際観光推進事業(海外への情報発信)	訪日旅行者を本県に誘致するため、訪日外客数上位である東アジアや伸びが大きい東南アジアを中心にプロモーション活動を実施する。併せて、県内での観光周遊が見込まれる個人旅行やグループ旅行のほか、欧米からの来訪者など新たな市場の開拓も行い、更なる外国人観光客の増加を目指す。	18,960	・旅行博での発信強化 5地域 ・エージェンツ、メディア等の招請 20者
観光交流局	湖南省滋賀県友好提携35周年記念事業	湖南省と滋賀県の友好交流35周年を祝い、記念式典を開催するとともに、特に環境、経済、文化芸術分野の幅広い交流を推進する。	3,572	記念事業関連事業への 県民参加者数300 人
観光交流局	ミシガン州滋賀県姉妹提携50周年記念事業	ミシガン州と滋賀県の姉妹提携50周年を祝い、記念式典を開催するとともに、特に若者、文化、芸術分野の重層的な交流を推進する。	17,601	滋賀県とミシガン州 の友好交流の認知度 60%(アンケートを実施)

基本目標2 「滋賀ならではの」の素材や強みを活かした特色のあるツーリズムの展開

戦略 滋賀の特色を際立たせる誘客活動の推進

担当課	取組名	事業内容	予算額 (千円)	目標
文化振興課	アール・ブリュット魅力発信事業	県民をはじめより多くの方がアール・ブリュットの魅力に触れられるよう、県内施設でのアール・ブリュット作品の展示等を推進する。	4,270	展示施設へのアンケートでアール・ブリュット魅力発信に「大変効果があった」「効果があった」の回答の割合60%
文化振興課	美術館広報・マーケティング事業	県内各地を巡るツアーなど、「美の滋賀」の魅力を発信し、県内外における認知度を向上させるとともに、今後の美術館に対する期待感の醸成にも資する取組を行う。	5,500	・企画・連携した団体数 90団体 ・事業参加者数 5,000人
環境政策課(琵琶湖博物館)	新琵琶湖博物館創造推進事業	博物館のリニューアルの効果を高め、利用者の拡大と定着を図るため、県民参加型交流会や移動博物館の開催等、県民やリニューアルの趣旨に賛同する企業等と連携した効果的な認知度向上の取組を行うとともに、教育旅行のプロモート等による誘客促進の取組を行う。	27,950	・新聞、テレビ、雑誌等に取り上げられる回数 600回 ・琵琶湖博物館と連携する企業・団体等の数 130者 ・「倶楽部LBM(LAKE BIWA MUSEUM)」新規会員登録者数 3,000人
琵琶湖政策課	おもしろ下物(おろしも)ピオトープ水辺のにぎわい創生事業	下物ピオトープを南湖におけるピオトープ拠点としてヨシやハスの観察、魚つかみ等の自然と触れ合う場の整備をするとともに、周辺施設の連携による烏丸半島の活性化を図り、水辺のにぎわいを創出する。	26,366	下物ピオトープ自然観察会の開催 2回/年
琵琶湖保全再生課	エコツーリズム推進支援事業	エコツーリズムの推進に向けて、市町等とのネットワークを通じた情報の共有・発信を行うとともに、全国の学生等が参加するシンポジウムやエコツアーにかかるガイド育成講座を実施する。	3,800	県民の環境保全行動実施率80%以上
森林政策課	「山を活かす、山を守る、山に暮らす」都市交流モデル事業	森林山村地域を活性化し、人口減少に伴うさまざまな課題を解決するため、森林山村地域の魅力を発見し、都市住民との交流を通じて森林山村地域への就労や定着を支援する。	15,000	体験交流イベント開催回数 2回
障害福祉課	障害者芸術・文化活動推進事業	障害者が安心して芸術・文化活動に取り組むことができる環境づくりを進め、障害のある人の社会参加の促進と地域生活の充実を図る。併せて、東京オリンピック・パラリンピックに向けた文化プログラムの一つとして、魅力あふれる滋賀らしい文化として発信する。	34,700	・障害者アート公募展への応募者数 290人 ・音楽等表現活動を支える人材育成 8人(新規)

観光交流局	日本遺産・琵琶湖魅力発信事業	平成29年度に開催した「水の文化ぐるっと博」で得た成果、課題を踏まえ、引き続き日本遺産「琵琶湖とその水辺景観－祈りと暮らしの水遺産」の認知度向上のため、日本遺産の情報発信に取り組む。	4,100	日本遺産構成文化財が所在する市の宿泊者数 320万人
観光交流局	びわイチ観光推進事業	「びわイチ」を安心・安全に、多様な人々が楽しめるコンテンツとして確立させるとともに、琵琶湖を中心に県内全体に広がる多様な資源を活かして県内全域への自転車による周遊観光を推進することを通じて、国内外からの来訪促進をはかり、地域活性化へつなげる。	19,817	びわイチ体験者数 12万人
観光交流局	忍者を活用した観光誘客促進事業	忍者を日本固有の文化資産として情報発信するとともに、国内外からの観光誘客を促進するため、関係自治体等が連携して結成した日本忍者協議会に対して負担金を拠出する。	500	忍者コンテンツ所在5市観光入込客数 1,535万人
観光交流局	観光キャンペーン推進事業	滋賀県『観光交流』振興指針の目標達成に向け、最終年度である平成30年度に、県、市町、観光関連団体、観光事業者および交通事業者等と一体となった総合的な観光振興施策として観光キャンペーンを展開し、観光地・滋賀としての認知度向上および本県への誘客や周遊促進を図る。	134,800	観光入込客数:5,300万人
観光交流局	教育旅行誘致事業	本県への教育旅行誘致を積極的に推進するため、首都圏や九州方面への誘致キャラバンの実施や旅行会社教育担当者現地研修会を開催する。	2,950	本県への教育(修学)旅行宿泊者数:10万人
観光交流局	地域観光活性化支援事業	県内各地域観光振興協議会等の行う観光活性化およびJR等の駅を利用した交通2次アクセスの利便性の向上のための事業を支援し、誘客を図る。	14,000	支援件数:25件
観光交流局	コンベンション招致事業	国内外の会議や大会等のコンベンションを本県に招致するため、大学や会議主催者、旅行会社関係者等を対象に、滋賀の魅力进行PRする。	3,468	支援件数:95件
観光交流局	近江の地酒普及促進事業	地酒に関する条例制定など、地酒振興の気運が上昇しているこの機会を捉え、酒蔵めぐりの促進や一般消費者に近江の地酒に触れる機会を提供する。	4,222	滋賀地酒10,000人乾杯プロジェクト参加協力店 200店舗
観光交流局	観光イベント推進事業	観光客の積極的な誘致を図るため、一定の観光誘客が見込める地域主催のイベントに対して助成する。	30,500	対象イベントに係る観光入込客数 951,000人
観光交流局	映像誘致・ロケ支援事業	映画・テレビ等の映像を通じて本県の豊かな自然や歴史・文化遺産を広く発信することにより、本県のイメージアップと観光および地域の振興を図る。	9,111	シナリオハンティング支援件数 5件
食のブランド推進課	「おいしがうれしが」食のおもてなしプロジェクト実践支援事業	平成30年度実施の大型観光キャンペーンにあわせ、県内の生産者(組織・団体)等と宿泊施設等が連携して観光客へ県産食材の魅力を伝える「食のおもてなし」企画を、テーマと時期を決めて県全域で一斉に実施することにより、宿泊施設等における観光客への県産食材の魅力発信を強化する。	4,743	食の発信企画に参加する宿泊施設等の数 30
食のブランド推進課	FOOD BRAND OHMI 海外プロモーション事業	県産農畜水産物の海外展開を促進するため、JETRO等と連携して、海外展示商談会への滋賀県ブース出展等を実施するとともに、東南アジア、北米等、有望地域へのプロモーションを効果的に実施する。	10,269	輸出推進に取り組む生産者団体等の数 15組織
畜産課	近江牛魅力発信事業	近江牛の地理的表示(GI)保護制度登録を機にさらなるブランド力向上を図るため、東京や訪日外国人に向けて近江牛の魅力を発信する。	5,057	近江牛の指定店舗数(累計) 292店舗
農村振興課	しがの里をめぐるものがたり応援事業	農村地域が滋賀県の周遊観光の一翼を担える体制づくりを目指すため、多彩な農村資源の磨き上げ(様々な体験メニューの開発等)支援や地域活動支援体制の構築(登録制度の運用)を図る。	650	新たな都市農村交流メニューの開発 5件
交通戦略課	滋賀の魅力を活かした公共交通利用促進事業	鉄道の利便性向上を図るため、公共交通の利用促進に向けた情報発信や環境整備を推進する。	17,390	定期外乗車人数 21,638人/日
文化財保護課	「戦国の近江」地域の魅力発信事業	地域に存在する城跡や古戦場などの戦国時代の遺跡の新たな魅力を掘り起こし発信する探訪や講座等を県内外で開催することで、県内外からの来訪者の拡大と探訪コースとして定着することを目指す。	1,300	・探訪参加人数650人 ・シンポジウム参加者700人
水産課	「しがの水産物」流通拡大対策事業	びわサーモン振興協議会による養殖びワマス「びわサーモン」のイメージアップや流通拡大の活動に対して支援する。	200	びわサーモンの新メニュー開発や大消費地でのPR
水産課	びわ湖のめぐみ消費拡大PR事業	「琵琶湖八珍」をはじめとする湖魚をより身近に魅力的に感じることのできる機会を創出、および事業者参画を促進することにより、湖魚の消費拡大・ブランド化を図る。	19,346	びわ湖産魚介類を活用する事業者数(琵琶湖八珍マイスター・フェア参加者数):累計180事業者
水産課	川の魅力まるごと体感事業	川に親しむ機会がない子育て世代の親子を対象に、川釣りの魅力を感じることで創出するとともに、釣り教室の開催など遊漁者の増加に向けた取組に対して支援する。	1,280	川の魅力を体験していただいた人数(事業参加者数)160人

戦略 学生、地域住民等による「観光交流」の推進

担当課	取組名	事業内容	予算額 (千円)	目標
文化振興課	近江文化発見・発信事業	滋賀ゆかりの文学作品等を通じて、県民が滋賀の歴史・風土・文化等を改めて認識し、地域への愛着を深めるとともに、その魅力を発信するための取組を推進する。	1,830	成果発表会参加者アンケートで滋賀県の文化に対する理解が「たいへん深まった」「深まった」の回答の割合 80%
文化振興課	みんなで創る美術館プロジェクト	県内各地で地域の施設や学校、団体等と連携し、子どもをはじめ多くの県民が美術の魅力に出会い楽しむことができるワークショップや講座などを実施する。	27,212	・参画・連携した団体数 90団体 ・事業参加者数 5,000人
文化財保護課	文化財継承人づくりアクティブ・ラーニング・モデル事業	中高生を対象に、文化財を活用したアクティブ・ラーニング(AL)による講座を行うことにより、将来、文化財を主体的に保存継承できる人材の育成を図るとともに文化財を活かしたAL学習事例の蓄積を目指す。	268	将来、保存継承にかかわりたいと思った参加者の割合70%(予定募集人数120人)
文化財保護課	文化財を未来へつなぐ「びわこMyぶん祭」開催事業	埋蔵文化財との出会いと楽しみを通じ、若い視点や発想による文化財の新しい親しみ方や魅力を絵画等で表現、創造してもらい、その作品を「びわこMyぶん祭」で発信することで、若い世代の文化財への関心と愛着を育み、保存継承を支える世代の拡大を図る。	305	文化財への関心の高まりや親しみを持った人の割合70%

基本目標3 来訪者、居住者双方がともに満足出来る「観光交流」推進の体制づくり

戦略 来訪者を温かく迎える人材の育成

担当課	取組名	事業内容	予算額 (千円)	目標
スポーツ局	スポーツボランティア支援事業	スポーツを「支える」立場から、ボランティアとしてのスポーツ活動への積極的な参加、機会づくりを支援し、県内で開催されるスポーツイベントや大会の円滑な運営につなげる。	25,200	スポーツボランティア登録者2,000名(平成32年度)を目指し、そのための普及、啓発を行う。また、登録者の資質向上のため、研修会を実施する。
観光交流局	「ウェルカム滋賀」推進事業	観光ボランティアガイドの活動により、来訪者を温かく迎える「おもてなし」の向上を図り、地域の活性化や観光振興につなげる。	250	県域協議会加入団体の観光ボランティアガイド会員数 740人
文化財保護課	滋賀の美と祭りのこころを伝える人づくり事業	地域の文化財の実地講座等や祭礼行事の保護団体の現地交流研修会を実施することにより、美術工芸品や祭礼行事などの文化財を地域で守り伝えていくために必要な人材の育成を図る。	1,094	・語り部づくり事業実施3地域、 ・普及活動表明率70% ・担い手研修事業実施2地域
文化財保護課	「近江の心」を育む「伝えたい・残したい郷土の魅力～文化財かるた」作成・活用事業	「文化財かるた」を作成し、その活用により県民に郷土と文化財の魅力を発信することで、滋賀の文化財と地域の魅力や価値を理解し、自ら語り、継承できる人づくりと郷土への誇りの醸成を図る。	300	絵札作成応募作品数 440作品

戦略 「観光交流」推進に向けた基盤の整備

担当課	取組名	事業内容	予算額 (千円)	目標
文化振興課	新生美術館整備事業	新生美術館の整備に係る検討・調整を行う。	49,000	新生美術館の開館
文化振興課	東京オリンピック・パラリンピック文化プログラム推進事業	東京オリンピック・パラリンピックの開催効果を活かし、滋賀ならではの文化の魅力を世界に向けて発信するため、多様な分野の関係者が集まる推進会議の開催や子ども・若者による次世代芸術フェスティバル事業などを実施する。	11,184	フェスティバル参加者アンケートで「大変良かった」「よかった」の回答の割合80%
文化振興課	アール・ブリュット振興事業	アール・ブリュットに関わる多様な分野の関係者で構成するネットワークの活動等を推進する。	2,538	アール・ブリュットネットワークフォーラム参加者アンケート「たいへん良かった」「良かった」の割合85%以上
環境政策課(琵琶湖博物館)	琵琶湖博物館展示交流空間再構築事業	「新琵琶湖博物館創造基本計画」に基づき、第2期リニューアルとして交流空間の再構築を行うため、樹冠トレイルやディスカバリールーム、おとなのディスカバリー等の整備・改修を行う。また、第3期リニューアルとしてA展示室およびB展示室に係る展示設計を行う。	331,679	・平成30年4月、7月、11月に各オープン ・平成30年度来館者数 57万人
情報政策課	県域無料Wi-Fi整備促進事業	国内外から滋賀への訪問者をはじめ、誰でも手軽に観光地などの訪問先でインターネットが利用できる無料Wi-Fi環境の一層の整備促進と利用方法などの利便性向上により、滋賀の「おもてなし」環境の充実を図る。	8,059	・無料Wi-Fi設置事業費補助によるアクセスポイント設置(60か所) ・県立施設Wi-Fi整備(5か所)

観光交流局	観光まちづくり推進事業	県内各市町や観光関連団体、観光事業者、住民など、多様な主体が参加、連携し、観光をキーにまちづくりに取り組み、観光振興のレベルアップと地域の活性化を目指す。	15,750	・観光まちづくりに向けた合意形成 3地域 ・観光まちづくりの展開 7地域 ・県内DMO展開加速化支援 1地域
観光交流局	国際観光推進事業(外国人観光客の受入体制強化)	訪日旅行者を本県に誘致するため、パンフレットの充実や多言語対応など、受入環境の向上を図る。	2,750	・訪日観光客向けパンフレット作成 ・宿泊施設向け多言語通訳サービス対応件数 500件
交通戦略課 道路課	「ビワイチ」安全・安心な自転車利用促進事業	「ビワイチ」をはじめ自転車を安全・安心に利用できる環境の構築や事故防止に向けた安全指導の強化、総合的に自転車情報を発信する環境の整備を進めるとともに、路面表示、走行空間整備などを進める。	274,849	ビワイチ体験者数 12万人